

標準計測法 12 第 1 版 5 刷 加筆個所リスト正誤表 (2015 年用)

26 ページ 9 行目

(旧) ユーザ施設のリファレンス線量計を 1 年に 1 度の頻度で JCSS 校正することで、項目 b) が確保されることになる。

(新) 線量のトレーサビリティを保証するため、ユーザ施設のリファレンス線量計について 1 年に 1 度の JCSS 校正を推奨する。

34 ページ、タイトル「2.3.1.2 平行平板形電離箱」から 5 行目から 6 行目にかけて

(誤) 実行中心

(正) 実効中心

41 ページ表 3.3 下から 3 行目、88 ページ表 5.3 上から 6 行目、

101 ページ表 6.2 左欄下から 23 行目、133 ページ表 A3.1a 下から 23 行目、

136 ページ表 A3.2 下から 23 行目

(誤) CC23-C/IC28

(正) FC23-C/IC28

55 ページ下から 12 行目から

(旧) 「なお、一部の平行平板形・・・使用は推奨しない。」

(新) 削除

66 ページ最下行

(誤) $3.59-0.36=3.23 \text{ g cm}^{-2}$

(正) $2.05-0.36=1.69 \text{ g cm}^{-2}$

70 ページ上「5. 校正深 d_c における…」枠から 6 行目

(旧) 使用しているリファレンス線量計が付録にない場合は、付録 3・・・ユーザ自身で決定する。

(新) 上記の文は削除し、「6. 線量最大深…」枠直前の式の後に、次の文章を挿入。

表 4.3 に記載のない平行平板形電離箱については、第 7 章の相互校正に従い水吸収線量校正定数 $N_{D,w,Q_{cross}}$ 、線質変換係数 $k_{Q,Q_{cross}}$ を求め、校正深水吸収線量を評価する。

70 ページ下「6. 線量最大深…」枠中 5 行目

(誤) 1.999 Gy

(正) 2.006 Gy

70 ページ下「6. 線量最大深…」枠中 7 行目

(誤) 1.000×10^{-2}

(正) 1.003×10^{-2}

71 ページ上「1. 放射線治療装置および…」枠から 6 行目、式末尾部分

(誤) g cm

(正) g cm^{-2}

74 ページ上「5. 校正深 d_c における…」枠から 2 行目

(誤) $R_{50}=6.36 \text{ g cm}^{-2}$

(正) $R_{50}=6.48 \text{ g cm}^{-2}$

77 ページ 1 行目

(旧) 使用しているリファレンス線量計は付録 3 に示されているもので、防浸性がないため電離箱の校正時には防浸キャップ(靴)を使用した。固体ファントムでの測定では防水キャップは使用しないが、線質変換係数は同様に使用できるため変更はない。

(新) 削除

77 ページ最下行

(誤) 深さ 1.6 mm の違いを PDD (1.34 cm) と PDD (1.5 cm) で補正した線量が

(正) 深さ 2.6 mm の違いを PDD (1.34 cm) と PDD (1.5 cm) で補正した線量が

80 ページ 1 行目

(旧) 使用しているリファレンス線量計が付録にない場合は、付録 3・・・ユーザ自身で決定する。

(新) 上記の文は削除し、「6. 線量最大深…」枠直前の式の後に、次の文章を挿入。
表 4.3 に記載のない電離箱については、第 7 章の相互校正に従い水吸収線量校正定数 $N_{D,w,Q_{cross}}$ 、線質変換係数 $k_{Q,Q_{cross}}$ を求め、水吸収線量を評価する。

91 ページ 1 行目

(誤) $(L/\rho)_{w,air}$ にその深さでの

(正) $(L/\rho)_{w,air}$ とその深さでの

114 ページ下 「7.3.2 フィールド線量計の相互校正」行から 4 行上

(旧) 使用しているリファレンス線量計が付録にない場合は・・・ユーザ自身で決定する。

(新) 削除

211 ページ右欄、「2.2 電子線に対する…」から上に 4 行目

(誤) $0.2 \leq d/R_{50} \leq 1.2$

(正) $0.02 \leq d/R_{50} \leq 1.2$